



ナミビア通信

JICA 青年海外協力隊
2023 年度 I 次隊
エロンゴサ小学校
吉野 葵
2025 年 9 月 第 45 号

平山小学校の皆さんこんにちは。ナミビアの小学校で先生をしていた吉野です。(7 月末に日本に帰国しました。)
夏休みが終わりましたが、まだまだ暑い日が続いていますね。体調管理をしっかりと、皆さんが夏休み明けも元気に学校生活を送っていただきたいと思います。

さて、これまでのナミビア通信でも少し紹介しましたが、ナミビアの小学校は日本と違って 1 月に新学年がスタートします。そして 6 月上旬の期末試験までが 1 学期で、期末試験が終わると 7 月中旬頃にかけて約 1 か月の冬休みがあります。(ナミビアは南半球にあって日本と季節が反対なので「冬」です。)そして 11 月下旬から始まる学年末試験までが 2 学期で、試験が終わると年明けまで夏休みになります。

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
ターム 1 (1 学期)					冬休み	ターム 2 (2 学期)					夏休み
新学年スタート					期末試験	学年末試験					

私は、今年の 1 月から 6 月までの 1 学期、主に 5 年生の算数を担当しながら空いている時間に他のクラスや低学年の授業のサポートをしていました。加えて、週に 2 回だけ放課後算数クラブをしたり、週に 1 回放課後の補習クラスをしたりもしていました。思うようにいかないことも多くありましたが、嬉しい出来事もありました。今日は 2025 年 1 月から 6 月までの 1 学期を振り返ってきたいと思います。

2025 年 1 学期の振り返り

① かけ算ソングの導入

日本では、2 年生の学習の中で、かけ算九九を歌や語呂合わせで暗唱するのが当たり前のようになっていませんか？でもナミビアでは、このような覚えやすい語呂合わせは存在しないので、例えば 3×4 の答えを知りたい時は「3、6、9、12」というように、3 を 4 回足しています。小さな数字のかけ算ならまだよいものの、 9×9 などの大きな数字になった時に「9、18、27、36、...81」と 9 を 9 回も足し合わせないといけません。そのため、計算ミスが起こりやすく、正しい答えを導けない人がたくさんいます。日本では九九の語呂合わせで瞬時に答えが出る計算にも、かなりの時間がかかります。そこで、この 1 学期の間、毎日かけ算ソングを歌ったらどうなるのかと思い、実験的に試してみることにしました。

その結果、 9×9 までの全てを暗唱するまでには至りませんでした。覚えやすいもの (6×6 や 7×7 のように同じ数をかける計算など) は多くの子どもが暗記していました。家でもこの歌を歌っているという子がいたり、以前までは紙に棒を描いて計算していた子が棒を描かなくなったりもしました。



②算数クラブでの変化^{へんか}

昨年^{さくねん}立ち上げた「放課後算数クラブ」を、今年も毎週^{まいしゅうたの}楽しんでいてくれる子どもたちがたくさんいました。去年^{きょねん}は、かけ算カルタ（例えば、先生が「 2×2 」と言^いったら、子どもたちが「4」の答えのカードを取るカルタあそび）をすると、「かけ算の答えを瞬^と時に^だ出せないけれど、カードは取りたい！」という思いから、計算をせず、あてずっぽうでカードを取ってしまう子がたくさんいました。しかし、今年は授業のはじめに毎日「かけ算ソング」を歌ったことで、かけ算の答えが瞬^と時に^ふ出せる子が増え、きちんと答えをわかった上^{せいかい}で正解^{さか}のカードを探^{ようす}している様子が多く見られるようになりました。また、例えば「 6×7 」の答えがすぐにわからなくても、「 $6 \times 6 = 36$ 」などの同じ数をかける計算はほとんどの子が暗^{あん}記^きできていたので、その36に6を足して42というように工夫^{くふう}して答えを導^{かんどう}いている子もいて感動しました。



③放課後クラス（週1回）

今年から、週に1回放課後の補習^{はくしゅう}をすることになり、授業で学^{がく}習^{しゅう}した内容^{ないよう}の復^{ふく}習^{しゅう}をしていました。強^{きょう}制^{せい}参加^{さんか}型^{がた}ではないので、全^{ぜん}員^{いん}が参加^{さんか}していたわけではありませんでした。中^{なか}には毎週参加している子もたくさんいました。

内容としては、まず初^{はじ}めに全員でその日の内容を思い出してから、その内容に関する問題^{もんだい}をプリントでひたすら解^ときます。No, 1のプリントが終^おわった子はNo, 2へ、それが終わったらNo, 3へ、といったように次^{つぎ}に進^{すす}みます。というのも、ナミビアでは、早^{はや}く終^おわった子は長^{ちよう}時間^{じかん}ただ座^{すわ}って何^{なに}もせ^まず待^{まち}ているということがあ^あたり前^{まえ}の状^{じよう}況^{きよう}としてあり、退^{たい}屈^{くつ}そうにしている子が目^めだちます。また、全^{まった}く理^り解^{かい}できていなくても、理^り解^{かい}できている子のペースで授業が進められてしまい、結^{けつ}局^{きよく}わからな^{ほう}い^{うち}まま放^{はな}置^ちされる様子もよく見られます。そのため、理^り解^{かい}できた子はど^{れん}ん^{しゅう}ど^くん^{せん}練^{れん}習^{しゅう}問^{もん}題^{だい}を解^くき、苦^く戦^{せん}している子には私^{わたし}がサポ^さー^ぽー^ートをしたり、早^{やく}く終^おわった子が先^{せん}生^{せい}役^{やく}として教^{おし}えたりして、それぞ^れれ^れの子^こが自^じ分^{ぶん}のペースで学^{がく}習^{しゅう}を進められるようにしたいと考^{かんが}えました。

これは日本でよくある学^{がく}習^{しゅう}ス^たイルだと思^{おも}います。でもナミビアではあまり見^みたこ^ことがあ^ありま^ません。1ク^くラ^らスの人数^{にんずう}が多いこ^ことや、様^{さま}々^ざな理^り由^{ゆう}から子^こども^もた^たち^ちに自^{さい}分^{てん}で採^{さい}点^{てん}をさ^させるこ^ことが難^{むずか}しい状^{じよう}況^{きよう}が多いこ^ことが関^{かん}係^{けい}しているかもし^しれ^れま^ません。あ^あたり前^{まえ}ですが、私^{わたし}が採^{さい}点^{てん}をしてい^いると、そ^その^{あい}間^だは困^{こま}っている子^このサポ^さー^ぽー^ートが十^{じゅう}分^{ぶん}にできま^ません。でも、サポ^さー^ぽー^ートに時^ま間^{かん}を^{れつ}か^かけてい^いると採^{さい}点^{てん}待^{まち}ちの列^{れつ}が^までき^{でき}てしま^{しま}います。早^{はや}く終^おわった子^こに先^{せん}生^{せい}役^{やく}として採^{さい}点^{てん}を担^{たん}当^{とう}して^うま^まら^らった^りも^もし^しま^ましたが、そ^それ^れで^でも上^う手^まく^くい^いか^かないこ^ことが多^{おほ}か^かった^です。も^もっと良^よい^{ほう}方^{ほう}法^{ほう}を模^も索^{さく}した^こか^かった^こな^こあ^あと心^{こころ}残^{ざん}りに思^{おも}っ^てい^いるこ^このひ^ひと^とつ^つです。

